

事業常任委員会視察報告会 要点記録

日時 平成 29 年 6 月 28 日（水）
場所 岸和田市役所 第一委員会室
出席者 委員長 松本 妙子
副委員長 反甫 旭
井舎 英生
稲田 悦治
鳥居 宏次
中井 良介
西田 武史
米田 貴志 （五十音順）

視察の行程 6 月 12 日（月）
大阪府鰯巾着網漁業協同組合
調査事項 浜手のにぎわいづくりについて

発言要旨

- 組合長の強い心意気が伝わり、やる気の大切さを感じた。イベント等もいろいろな方と連携して取り組んでおられた。行政が協力できる部分はもっと協力すべきと考える。例えば、人を集めるための広報活動や岸和田に来られた観光客が立ち寄ることができるようにする工夫などである。
- 本市の漁業について知っている市民は少ないと感じる。説明に中でも大阪湾の魚は評価が高いとのことであるので、他市にPRすることはもちろんのこと、市民も知れば、相乗効果が期待できる。また、本市の行っているシティセールスにもつながる部分である。
- 水産庁からの助成支援を得て、水産物の荷捌き施設の整備を行っている。その整備などにより、関空から空路で東京などに出荷している。特に、生シラスや生サワラは高い評価を得ているようである。また、岸和田・泉州の若者の雇用創出の場ともなっており、地域経済に貢献している。
- 本市としても具体的な対応策を策定し、頑張る企業等にはしっかりと応援しなければならないと考えるが、現時点では、その関わりは低いと言わざるをえない。
本市は、「岸和田旧港地区周辺の魅力づくり構想」を進めようとしているが、その取り組む姿勢は消極的である。協同組合の取り組みを通して、カンカン及び岸和田駅前商店街等含めた活性化に向け取り組むことで、新たな賑わい、活性化に繋げるべきである。本市のやるべき具体的・積極的な取り組みに期待したい。
- 組合長の強力な指導力のもと、地蔵浜みなどマルシェが定着してきている。今後、このマルシェを通じて、浜の活性化とにぎわいづくりに協力していきたい。

事業常任委員会視察報告会 要点記録

- シラスの競りの様子やみなとマルシェの場所を見学した。築地のような場外をつくって地元の市民や業者とも取引できるようにしたい、カンカンとの一体化を図りたいとのことであった。今後の発展を期待したい。
- みなとマルシェの独自イベントの効果もあり、来場者が増えている。しかしながら、市民の認知度もまだまだ低い。また、市外からの来場者も多いが、その方々への案内図や交通の便が課題である。本市としても独自で頑張っているということで、浜手のにぎわいづくりのために協力できることは協力していくべきだと思う。
- 今、組合の方々のご努力によって、毎週日曜日に開催されている地藏浜みなとマルシェが俄かに注目を浴び、賑わいができつつある。また、岸和田で水揚げされるシラスを名物として知らしめる食堂もでき、賑わいを作り出している。そのような観点から考察すると、このことは表題でもある浜手のにぎわいづくりの核となることは十分に考えられる。

以上